藤城小学校保護者の皆様へ　　令和2年12月23日　発行

雲の上にはいつも・・・・

【No.16】藤城小学校　校長室より（不定期刊）

うわぁ！ サンタがいっぱいだ！ 何人いるんだろう？

「先生。修学旅行，沖縄がいい！」「ディズニーランド!!」「なに言うてるねん，そんな遠いとこ！ 中学校で行ってんか！」

実はこのやりとりの前日（なんと修学旅行の5日前！），彼ら彼女らは修学旅行延期の通知にがっくり肩を落として帰宅した。しおりをもらい，楽しい2日間を夢見た直後だったので落胆はなおさらだろう。それなのに一夜明けた明くる日の，この会話のやりとりである。まったく，なんていう子どもたちだ。切り替えが早い，引きずらない・・・。 あきれているのではありません。未練たっぷりに「恨(うら)めしや～修学旅行」となるかと思いきや，もう笑顔で冗談を入れてくる子どもたち。ふだんと変わらぬ姿に，ありがとうと頭を垂れた（心の中で）。6年生の子どもたちの笑顔には，ほんとうに救われる。

でもこれは6年生だけではない。みさきの家や花背山の家の宿泊学習，遠足等の校外学習，運動会，「藤城夏まつり」や「オータムフェスタ」など，子どもたちが楽しみにしているものがことごとく中止となった今年度。それなのに，この子どもたちの瞳の輝きはどうだ。あふれる笑顔や活き活きとした姿は何なんだ・・・？ そう考えて，ふと気づいた。これはすっかりそのまま家庭の姿ではないかと・・・。子どもは「された」ように「する」ものです。育てたように育ちます。たとえば食事の前に手を合わせて「いただきます」を言う家庭で育った子は，外へ出て食事をしても同じようにします。

子どもの姿は家庭の姿　　家庭の姿は地域の姿

コロナ禍の中で，我慢することの多い毎日を過ごしている子どもたち。そんな子どもたちがこんなに楽しそうなのは，きっと家庭の中での「プラス思考」によるものだと。修学旅行延期の通知にも，「2月に行けるんやし良かったなぁ。」と言ってもらっただけで心は軽くなる。これが「あ～あ．．．。今　行っとかんと，もっとひどなって，どっこも行けんようになるで．．．」なんていうお家ばっかりなら，心は重くなり「恨めしや～」てなことになったことでしょう。先のことはわかりません。未来は決まっていないから未来。できないことを嘆いていても何も変わらない。不安な気持ちばかりを見つめていると，いっそう不安になるばかりです。ならば，今できることをしっかりやって楽しむ。そんな家庭の姿勢が子どもたちを前向きにしているのでしょう。

そして，この藤城という地域がもっている「地域・家庭・学校が協働してゆっくりと子どもたちを育てていこう」という願い。それを学校運営協議会を中心に育まれてきた哲学が下支(したささ)えしている。

今日で2学期が終わります。さまざまなお願いをすることが多かった2020年も，あと8日となりました。今年1年，本当にありがとうございました。新型コロナの感染の拡がりにはブレーキがかからず，ヨーロッパでは感染力の強い変異種が拡がっている先行き不透明な中での年越し。どうぞ皆さま，穏やかに新年が迎えられますように。

心に届く言葉は．．．

ドイツでの新型コロナによる死者数は12月9日，過去最多の1日590人に上った。これを受けてメルケル首相は連邦議会で演説。「クリスマス前に多くの人と接触することで，祖父母と過ごす"最後"のクリスマスになってはならない」などと強く訴え，拍手喝采（かっさい）をあびた。ニュースで見た方も多いのではないでしょうか。

メルケル首相は，クリスマスまでの期間にホットワインやワッフルを屋外で楽しむ習慣に理解を示しながらも，「心の底から申し訳なく思います。けれど，私たちが払う代償が1日590人もの命だとしたら，それは到底容認できません」と強く語った。

政治家の演説で心が震えたのは久しぶりだ。心に強く届く言葉だった。いったい何が違うのか？

セロニアス・モンクという高名(こうめい)なジャズピアニストは，「あなたの弾く音はどうしてそんなに特別な響き方をするのか？」と質問されたとき，ピアノを指さしてこう答えたそうだ。「新しい音なんてどこにもない。鍵盤(けんばん)を見てみなさい。すべての音はそこにすでに並んでいる。でも君がある音にしっかり意味をこめれば，それは違った響き方をする。君がやるべきことは，本当に意味をこめた音を拾い上げることだ」と。

本当に大切なものは，すでに「ここ」にある。メルケル首相の演説も，そんな大切な言葉を拾い上げ，全身全霊をかけて語ったから人々の心に届いたに違いない。

子どもたちの学級人権目標の振り返りに私もビデオで出演。今回のメインはオルゴール。ちょっとした実験をしてみました。手のひらに写真のオルゴール（機械部分）を載(の)せて鳴らしてみると，ほんのかすかな音がするだけ。ところが，ピアノの上に載せると．．．。うわ～ぉ！体育館全体に拡がるオルゴールの曲！ 互いが響き合うこの現象を「共鳴」といいます。（体育館で実際に聞いてほしかった）

寄り添(そ)うこと ＝ 共鳴(きょうめい)

同じことは，きっと私たちにも可能です。オルゴールとピアノの関係のように，誰かに寄り添うことでお互いがもっと自分らしく，活き活きできる。誰かが寄り添ってくれることで不安な気持ちが和らぎ，縮こまっていた体が動き出す。 確かにありますよね。

藤城小学校の子どもたちが活き活きしているのは，この「寄り添う」関係性があるからなのでしょう。これがある限り，たとえ新型コロナの感染者が出たとしても，「いちばんたいへんなのは感染した人だ」と励ましこそすれ，差別することはないと思うのです。

辛(つら)さや不安を抱えた人が勇気を出して一歩を踏み出せるのは，「寄り添う」人がいるからに他なりません。